

○極東國際軍事裁判速記録 第九號

亞米利加合衆國、中華民國、大不列顛愛蘭聯合王國、「ソビエツト」社會主義共和國、聯邦、瀋陽聯邦、加奈陀、佛蘭西共和國、和蘭王國、新西蘭、印度及比律賓國

對

被告

荒木 貞夫 土肥原賢二
橋本欣五郎 畑 俊六
平沼騏一郎 廣田 弘毅
星野 直樹 板垣征四郎
賀屋 興宣 木戸 幸一
木村兵太郎 小磯 國昭
松井 石根 松岡 洋右
南 次郎 武藤 章
永野 修身 岡 敬純
大川 周明 大島 浩
佐藤 賢了 重光 葵
嶋田繁太郎 白鳥 敏夫
鈴木 貞一 東鄉 茂徳
東條 英機 梅津美治郎

昭和二十一年六月四日(火曜日)
東京都舊陸軍省內極東國際軍事裁判所法廷ニ
於テ

裁判所側

裁判長

瀋陽聯邦代表

ウイリアム・F・ウエツプ卿

判事

加奈陀代表

E・スチュワート・マツクドウガ
ル判事

中華民國代表

梅汝 敖氏

佛蘭西共和國代表

アンリ・ベルナル氏

和蘭王國代表

バーナード・ヴィクター・A・ロー
リング氏

新西蘭代表

エリマ・ハーバー・ノースクロフ
ト判事

「ソビエツト」社會主義共和國
聯邦代表

I・M・ザリヤノフ判事

大不列顛愛蘭聯合王國代表

バトリック・クーパー

亞米利加合衆國代表

ジョン・P・ヒギンス判事

印度代表

ラーダ・ビード・バル判事

主席檢察官

亞米利加合衆國代表

ジョセフ・B・キナン氏

參與檢察官

亞米利加合衆國代表

フランク・タブナー・J・R氏

中華民國代表

向 哲 潜 氏

大不列顛愛蘭聯合王國代表

A・S・コミンズ・カー氏

「ソビエツト」社會主義共和國
聯邦代表

S・A・ゴルンスキー氏

瀋陽聯邦代表

S・Y・ローゼンブリット大佐

加奈陀代表

A・J・マンズフィールド氏

H・G・ノーラン代將

佛蘭西共和國代表

ロベール・オネト氏

和蘭王國代表

W・G・F・ボルゲルホフ・マル
デル氏

新西蘭代表

A・T・ラジャージ氏

印度代表

R・H・ウイリアム代將

比律賓代表

ゴビンダ・メノン氏

辯護人側

ベドロ・ロベス氏

主席辯護人(亞米利加合衆國側)

ビーバレー・M・コルマン海軍大佐

補佐辯護人

ローレンス・P・マツクマラス氏

被告荒木貞夫辯護人

フランクリン・ワレン氏

被告土肥原賢二辯護人

アリス・テイ・デイーズ・ラザラス中尉

被告畑俊六辯護人

サム・ウエル・J・クライマン大尉

被告平沼騏一郎辯護人

デイヴィッド・F・スミス氏

被告廣田弘毅辯護人

ジョージ・C・ウイリアムス氏

被告星野直樹辯護人

ウイリアム・ローガン氏

被告木戸幸一辯護人

ジョウゼフ・C・ハワード氏
被告木村兵太郎辯護人

アルフレッド・W・ブルックス氏
被告小磯國昭辯護人

フロイド・J・マティス氏
被告松井石根辯護人

オウエン・カニンガム氏
被告大島浩辯護人

ジェームス・N・フリーマン氏
被告佐藤賢了辯護人

ジョージ・A・フアーネス大尉
被告重光葵辯護人

エドワード・P・マツクドローモット氏
被告嶋田繁太郎辯護人

チャールス・B・コールド氏
被告白鳥敏夫辯護人

チャールス・T・ヤング氏
被告東郷重徳辯護人

ベンブルース・ブレイクニール少佐
被告梅津美治郎辯護人

辯護人(日本側)
菅 原 裕氏

被告荒木貞夫辯護人

塚 崎 直 義氏
被告土肥原賢二及比被告大島浩辯護人

林 逸 郎氏
被告橋本欣五郎辯護人

神崎 正義氏
被告水野修身辯護人
宇佐美 六郎氏
被告平沼一 一郎辯護人
花 井 忠氏
被告廣田弘毅辯護人
藤井 五一郎氏
被告星野直樹辯護人
山田 半 藏氏
被告板垣征四郎辯護人
高野 政 雄氏
被告賀屋興宜辯護人
穂積 重 威氏
被告木戸幸一及被告東郷茂徳辯護人
鶴、澤、總 明氏
被告松井石根及被告白鳥敏夫辯護人
塩原時三郎氏
被告木村長太郎辯護人
三文字 正平氏
被告小磯國昭辯護人
小林 俊 三氏
被告松岡洋右辯護人
竹内金太郎氏
被告南次郎辯護人
岡本 尚 一氏
被告武蔵章辯護人

奥山 八 郎氏
被告水野修身辯護人
宗宮 信 次氏
被告岡敬純辯護人
大原 信 一氏
被告大川周明辯護人
高 柳 賢 三氏
被告重光葵辯護人
高 橋 義 次氏
被告嶋田繁太郎辯護人
長谷川 元 吉氏
被告鈴木貞一辯護人
清 瀬 一 郎氏
被告東條英機及被告佐藤賢了辯護人
三宅 正太郎氏
被告梅津美治郎辯護人
言語部長
デイヴィッド・P・ホーンスティン海軍
少尉
モニター
午前 林秀一氏
午後 伊丹明氏、小野寺正氏
通 譯
午前 森富男氏、島内敏郎氏
午後 土屋軍氏、岡孝氏

午前九時三十四分開廷
○ウアンミター執行官 茲ニ極東軍事裁判所
ヲ開廷致シマス
○ウエツフ裁判長 被告ハ松岡並ニ大川ヲ除イ
テ全部出席シテ居リマスカ——是カラ考慮中デ
アリマシタ決定ヲ申上ゲマス
大川周明ヨリ提出ノ事件——是ハ大川被告ヲ
東京帝大ノ精神病院ニ移スト云フ要求デアリマ
ス、證據ニ依リマス、被告ハ目下重大ナル精
神病ヲ患ツテ居ルト云フコトデアリマス、當法
廷ハ大川ヲ東京帝大ノ精神病科ニ移シ治療スル
コトヲ命令致シマス、但シ最高指令官ニ依リ命
令サレルヤウナ適當ナル保護措置ヲ執ルコト
致シマス、大川ハ尙ホ起訴狀カラ削除サレンコ
トヲ申出テ居リマス、然ラズンバ適當ナル時期
マデ審理ヲ延期スルコトヲ申出テ居リマス、未
ダ有罪無罪ノ申立ヲシテ居リマセス、但シ、本
公判進行中ニ全快ノ見込ナシトハ言ヘマセス、
隨テ其ノ間全快ノ時ニハ出廷ノ上、認否ヲ行フ
コトガ出來マス、隨テ本申出ハ却下致シマス、
但シ公正ナル裁判ヲ受ケル爲ニ其ノ辯護人ニ依
ツテ代理サレマス
松岡洋右ノ申出ノ件——是ハ松岡被告ガ個人
病院ニ移サレルコトヲ要求シ、尙又起訴狀ヨリ
削除サレルコト、或ハ然ラズンバ適當ナル時期
マデ審理ヲ延期スルコトヲ要求シテ居ルモノデ
アリマス、證據ニ依リマス、被告ハ非常ニ惡化
シテ居リマスガ、但シ全快ノ見込ナシトハ言ヘ
マセス、仍テ當法廷ハ被告松岡ヲ東京帝大隔離
病舎ニ收容シ、最高指令官ノ命令スル安全保障
ノ手段ヲ講ジマスコトヲ命令シマス、當法廷ハ
同人ノ名前ガ起訴狀カラ削除サレルコト並ニ審
理ノ延期ヲ却下致シマス、併シナガラ更ニ證據
ガアリマシタ時ニハ申出ヲシテモ宜シウゴザイ
マス、其ノ間同人ハ辯護人ニ依ツテ當法廷ニ代
理サレ、尙ホ辯護人ニ對シ同人ハ色々辯護ヲ
ナスコトガ出來ルト當法廷ハ認メテ居リマス、
檢察側ノ申出ニ關シテ申シマス、各事件ニ關
シ冒頭陳述ヲナスノ件——當法廷ハ各事件ニ
付キ、其ノ該當日頭ニ於テ陳述ヲナスコトヲ許
可致シマス、本件ハ條例ニ違反スルトハ當法廷
ハ考ヘマセス、又檢察側ノ申ス通り、第十二條
ノ目的ニ合シテ居ルト思ヒマス、辯護人ハ之ニ
依ツテ被害ヲ蒙ルコトハアリマセス、尙ホ當
法廷ハ檢察側ニ對シ日本政府ノ諸記録、並ニ
「レコード」ヲ提出スルコト、但シソレニハ裏書
ノ必要ナイコトヲ許可致シマス、第十三條Dニ
依リマス、ト政府ノ公文書等ニハ裏書ガ必要ナイ
コトニナツテ居リマス、其ノ目的ハ百餘ニ餘ル
多大ノ證據ヲ除クコトヲ目的デアリマス、各被
告ハ其ノ何レノ證據ニ對シテモ關係ナイトカ、
或ハ不十分デアルトカ云フヤウナ理由デアリマ
ス、コトガ出來ルトデアリマス、此ノ證據書類ヲ
受入レマス、當法廷ハ、反對ハイツデモ
許可致シマス、當法廷ハ檢察側提出ノ九十五ニ
對スル法廷認知ヲ許可致シマセス、檢察側ノ申
入レニ依リマス、其ノ九十五ノ出來事ノ認定
ヲ行フト云フコトハナクテ、出來事ノ日時ニ對
スル認定ヲ行フト云フコトニナツテ居リマス、
但シ附屬ケデハ證據ノ立證ガ出來ナイト云フ
コトヲ法廷ハ考ヘマセス、事ノ重大性ニ鑑ミマシ
テ、當法廷ハ其ノ事件ガ出來ル都度其ノ認定
ヲ決定致シマス
當法廷ハBニ要求サレテアリマスコトノ認知
ヲ許可致シマス、但シ總テ是ハ公正ニ行ハレ、
正確ニ行ハレナクテハナリマセス、サウ云フ條
件ノ下ニ文書ノ官憲カラノ裏書ナシニ證據トシ
テ受容レルコトヲ認メマス
當法廷ハ檢察側並ニ辯護人側ニ對シマシテ提
出サレル總テノ證據物件ニ、順番ノ番號ヲ付ス
ルコトヲ命令致シマス
辯護人側申出ノ各項目ニ關スル冒頭陳述ニ關
スル件——是ハ本裁判所條例第十五條Cニ明示
サレテアリマス通り、各被告ハ簡單ナル冒頭陳
述ヲスルコトガ出來ルヤウニナツテ居リマス、
各被告ニ關スル證據ガ出サレル前ニナスコトガ
出來ルト思ヒマス、隨テ本要求ヲ提出スル理由
ハアリマセスカラ、正式ニ却下致シマス——首
席檢察官
○ブレイクニ辯護人 裁判長閣下……(通譯

ナシ)

○ウエップ裁判長 (通譯ナシ)

○ブレイクニ辯護人 首席檢察官が劈頭陳述

ヲサレル前ニ、護國ヲ代表致シマシテ一言申

上ゲタイト存ジマス、辯護側ハ首席檢察官ノ劈

頭陳述ヲ寫シテ實ツテ居リマスガ、其ノ劈頭陳

述ニ使用サレテ居ル言葉ニ對シテ色々異議ガゴ

ザイマス、劈頭陳述ガ行ハレテ居ル間一々異議

ヲ申立テルコトハ控ヘマスカラ、裁判所ノ許シ

ヲ得マシテ、劈頭陳述ガ終了致シマスレバ、繼

メテ異議ヲ申立テタイト存ジマス

此ノ問題ニ付テ色々語學ノ問題ガ起ツテ居リ

マスガ、其ノ劈頭陳述ノ日本語譯ニ關シテ、日

本側首席辯護人清瀬氏ニ替ツテ戴キマス (訂正

林モニター「副首席辯護人」)

○ウエップ裁判長 法廷ハ、首席檢察官が劈頭

陳述ヲナシマシタル後ニ一括シテ反對ヲ申述ベ

ルコトヲ許可致シマス

○清瀬辯護人 昨日「キーナン」首席檢察官ノ

劈頭陳述ノ日本語譯ヲ頂戴致シマシタ、大變便宜

ヲ得テ喜ンデ居リマスルガ、進行ノ遲延ヲ避ケ

ル爲メ二ツノコトダケヲ伺ヒタイト存ジマス

一ツハ英文ノ第一頁ノ二番カラ六頁ノ終リマ

デ、五枚半ト云フモノガ和文ノ方ニアリマセヌ

ノデス、コンナニ澤山脱ケテ居リマシテハ「イ

ヤホーン」デハ調子ガ揃ハヌト思ヒマス

モウ一ツハ、英文ノ五十二頁ニ「ボツダム」

宣言ヲ引用サレテ「スターン・ジャスティス」

ト云フ言葉ノ譯ガアリマスルガ、之ヲ「峻嚴ナ

ル處罰」ト書イテ居リマス、
ハ、日本語デハ今翻譯サレタ通り罰「パニッシュ

メント」ト云フ意味ニナリマス、是ハ明カニ間

違ツテ居ルノミナラズ、非常ナ問題ヲ起シマス

カラ、豫メ御訂正ヲ願フタ方宜イト思ヒマス

○ウエップ裁判長 是等ノ反對ニ關シマシテ

ハ、先程申シマシタ通り、劈頭陳述後最後ニ提

出シテ戴キマスレバ、適當ニ處分致シマス

○清瀬辯護人 有難ウ、併シ事ハ實際ニ關スル

コトデアリマスカラ……

ス

○キーナン檢察官 茲ニ「フランス」代表ノ我

ガ同僚陪席檢察官ヲ御紹介シタイト思ヒマス

〔フランス〕代表「オネ」檢察官ヲ紹介ス

○キーナン檢察官 ……

〔キーナン檢察官劈頭陳述〕

○ウエップ裁判長 十分間休憩致シマス

午前十時五十分休憩

午前十一時開廷

○ウエップ裁判長 首席檢察官

○キーナン檢察官 ……

〔キーナン檢察官劈頭陳述ノ終〕

○ウエップ裁判長 一時半休憩致シマス

午前十一時三十分休憩

午後一時三十分開廷

○ヒューズ執行官 茲ニ極東國際軍事裁判所ノ

開廷ヲ宣シマス

○キーナン檢察官 ……

〔キーナン檢察官劈頭陳述ノ終〕

○キーナン辯護人 是ハ暫ク時間ヲ要シマス

ノデ、辯護側ト致シマシテ休憩ヲ御願ヒ致シ

マス

○ウエップ裁判長 十五分間休憩致シマス

午後二時五十分休憩

午後三時三十分開廷

○ヒューズ執行官 只今ヨリ開廷致シマス

○ウエップ裁判長 「フーネス」少佐、アナタ

ノ動議ヲサレル場合ニ外ノ方ト一緒ニ抗議ヲ伺

ヒタイト思ヒマス、アナタノ動議ノ根柢ヲナス

モノ、ソレヲ支援スル議論ナシニ唯アナタノ抗

議ノ基礎ヲナスモノヲ知ラサセテ下サイ

○フーネス辯護人 我々ガソレニ對シテ抗議

ヲセントスル字句ニ付テデアリマスカ

○ウエップ裁判長 サウデス

○フーネス辯護人 私ガ辯護シテ居ル被告ハ

全體トシテノ陳述ニ反對スルモノデアリマス

○ウエップ裁判長 其ノ反對申出ハ却下致シマ

ス

○フーネス辯護人 ソレデハ我々ガソレニ對

シテ反對スル説ヲ讀ミマス

○ウエップ裁判長 眞竝ニ行ヲ知ラシテ下サイ

○フーネス辯護人 英語文ノ第二十三頁第二

節、第三節、及ビ引用文、二十八頁最後ノ文

章、最後ノ一節、三十頁最後ノ一節三十二頁

「吾々ガ一九二八年即チ昭和三年一月一日」ト云

フ句カラ頁ノ終リマデ、三十三頁第一節、三十

五頁最初ノ一節「此ノ行爲ハ」ト始マル一節デア

リマス、四十六頁第一節及ビ第三節、四十九頁

第一節「次ノ如ク觀測サレル」ト始マル一節デア

リマス、其ノ一節及ビ次ノ一節、是ハ五十頁マ

デ續イテ居リマスガ、五十三頁「若シ我々ハ彼

等ノ主張ヲ信ズルナラバ」ト始マル一節、及ビ

次ノ一節、即チ此ノ節ノ最後ノ一節デアリマ

ス、又我々ハ初メノ三十三頁ニ對シテ反對致シ

マス、其ノ理由ハ、是ハ管轄ノ問題ニ對スル議

論ヲ蒸シ返シタモノデアツテ、此ノ管轄權ノ問

題ハ既ニ判決ガ下サレテ居ルノデアリマス、他

ノ被告人ノ他ノ辯護人カラ他ノ抗議ガアルト思

ヒマス、只今裁判長ハ此ノ理由出此ノ抗議ハ後程

スルコトガ出來ルト言ハレマシタ

○ウエップ裁判長 只今ノ抗議ハ被告ガ爲ニ

全問題ヲ此ノ問題ニ集中シヨウトスルヤウニ見

掛ケラレマス (訂正 小野寺モニター「劈頭陳

述ニ集中シテ居ルヤウニ思ヒマス)

○フーネス辯護人 我等ノ企圖セルモノハサ

ウデアアリマセマデシタ

○ウエップ裁判長 檢察側ノ提出スル證據ガ劈

頭陳述ヲ支持シナイ限リニ於テ、アナタハ其ノ

劈頭陳述ヲ攻撃スル權利ガアリマス

○フーネス辯護人 我々ハ、ソレヲ能ク知ツ

テ居リマスガ、併シ此ノ劈頭陳述ノ或ル部分ハ

非常ニ不適當デアリ煩悩ノデアルト思ヒマスノ

デ、此ノ機會ニ反對スベキデアルト思ヒマス

立テテ言フ理由ハアリマセヌ

○フーネス辯護人 此ノ劈頭陳述ノ目的ハ私

ノ理解スル所ニ依レバ簡單ニ檢察側ノ主張ヲ立

證スル證據ノ種類ヲ述ベヤウト云フモノデアリ

マシテ、私ノ考ヘデハ劈頭陳述ハソレヲシテ居

リマセヌ、デアリマスカラ今抗議スベキデア

ト思ヒマス、多クノ場合劈頭陳述ハ事實ガ述

ベテアルヤウデアリマスガ、ソレハ不適當デア

リ此ノ法廷カラ除外サレルベキデアルト主張致

シマス (訂正 小野寺モニター「事實ト稱サレテ

アルモノガアリマス」)

又此ノ辯護人側及ビ判事ト

ノ言葉ノヤリ取りハ、私ニ辯論ヲサセテ呉レタ

場合ヨリモ、更ニ時間ヲ要シテ居ルト申シマス

○ウエップ裁判長 私ハ其ノ陳述ハ不適當ナモ

ノデア

ノデア、法廷ハ最早アナタノ仰シヤルコトヲ

是レ以上聽カナイト決定致シマシタ

〔清瀬辯護人發言席ニ着ク〕

○ウエップ裁判長 アナタハドウ云フ抗議ヲナ

サレルノカ、今簡單ニ述ベテ下サイ

○清瀬辯護人 「キーナン」サンノ劈頭陳述ニ、

英語デ御述ベニナラヌコトガ非常ニ長イ範圍ニ

於テ日本語ニ通譯サレテ居ルノデアリマス、其

ノ中ニ相當ニ重要ナモノガアリマスカラ、日本

語ノ記錄カラハ御除キ願ヒタイト云フコトガ

ッデアリマス

○ウエップ裁判長 其ノ場所ヲ指摘シテ下サ

イ、若シ訂正ガ必要デアレバサウ致シマセウ

○清瀬辯護人 致シマス、小サイコトハ別トシ

テ、日本語ノ「デキスト」ノ一ノ十八ノAト云

フ頁ノ初行カラ八行目マデ、此ノ一段ハ「キ

ナン」檢察ノ御演說ニハナカクツコトデアリマ

ス、次ハ尙ホ重要ナコトデ日本「デキスト」ノ

一ノ七十二初行カラ此ノ全體デス、終リマデ、

ソレカラ其ノ次ニ引續キ七十三ノ初行カラ五行

マデ、是レ全體ハ「キーナン」檢察ノ御演說ニ

ハ全クアリマセヌ、ナキモノガ翻譯サレテ居

リ

マシ

タ

リ

マ

シ

タ

リ

マ

シ

タ

リ

マ

シ

タ

リ

マ

シ

タ

リ

マ

シ

タ

リ

マ

シ

タ

リ

マ

シ

タ

リ

マ

シ

タ

リ

マ

シ

ベキモノデアリマスカラ……
○ウエップ裁判長 是ハ言語部訂正出來ルコトデアルト思ヒマス
○清瀬辯護人 ドウカ然ルベク御訂正ヲナサイマシテ、後ニ過チノナイヤウニ願ヒマス
○ウエップ裁判長 法廷ト致シマシテハ通譯者、「モニター」茲ニ裁定官其ノ他言語關係者ニ之ヲ命ジマシテ、必要ナル訂正ヲスルヤウニ後程命ジマセウ、併シ只今此處デソレヲ論議スベキ場所デハゴザイマセウ
○クライマン辯護人 裁判長閣下、本裁判中如何ナル裁判手續ガ執ラレルモノデアアルカト云フコトヲ探シ出サウトシテ居ルノデアリマス
裁判長殿、私ハ今二、三ノコトヲ筆記シマシタガ、ソレヲ簡單ナ文章デ述ベサシテ戴キタイト存ジマス
○ウエップ裁判長 述ベテ差支ヘアリマセウ
○クライマン辯護人 私人最初ノ筆記ハ起訴狀ノ諸問題ニ關聯性ノナイ事實、サウシテ之ニ付キマシテ私ハソレニ相當スル箇所ニ線ヲ引キマシタ
○ウエップ裁判長 アナタノ仰シヤル句ヲモウ少シハツキリト知ラセテ下サイ
○クライマン辯護人 二十三頁、是ハ「ブアイネス」少佐ガ既ニ指摘サレマシタガ、其ノ二十三頁ニ日露戰爭ニ付テ述ベテアリマスガ、起訴狀ニ於ケル共同謀議ト云フモノガ一九三八年即チ昭和十三年カラ一九四五年、昭和二十年マデノ期間ニ付テノ問題ヲ扱ツテ居ルノデアリマスカ、一九〇四年即チ明治三十七年ト云フモノハ此ノ期間外デアリマスカ、此ノ問題ニ關聯性ガナイモノト主張致シマス
○ウエップ裁判長 其ノ事件ハ日本政府ノ騙シ討チノ行爲ノ事件デアリマスカ、其ノ問題ニ關係アルモノトシテ茲ニ取上ゲタモノト思ヒマス
○クライマン辯護人 分リマシタ、同ジヤウナ反對ヲ三十二頁ノ最後ノ一節ニ付テ致シマス、又之ニ關シマシテ私ハ幾ツカノ筆記ヲ致シマシタガ、是ハ此ノ起訴狀ノ諸問題ニ關係ナキ問題

ヲ扱ツタモノデアリ、ソレハ世界中ニ於テ認メラレテ居ル此ノ被告人ノ諸權利ヲ侵害スルモノデアルト思ヒマス、四頁ノオ終ヒカラ五頁ノ一節ノ終リマデ、人々ガ戰爭ノ準備者並ニ挑発者ガナゼ處罰サレナイカニ付テ疑惑ヲ感ジテ居ルト云フ一節デアリマス、又十九頁ノ混合委員ニ付テノ一節、ソレハ此ノ各國ニ於テ一般ノ認メラレテ居ル法律ニ立脚シテ居リマセウカラ、是ハ關聯性ナキモノト主張致シマス、又二十七頁ノ最初ノブアイネス「ヘーグ」條約ノ附屬文書ニ關スル項、五十頁ノ第一節全部、五十二頁ノ第二節、米國ノ日本占領ニ付テデアリマスガ、之ニ付テ法的認知ヲスルコトハ出來マスガ、本事件ニ關聯性ナイモノト思ヒマス、又實際ハ其ノ法律デアルカ、サウデナイカガ議論サレテ居ル事項ニ關シテ、法律デアルト主張スル箇所ニ付テ筆記ヲ致シマシタ、第四頁第一節「既ニ承認サレタ法則」ト云フ字句デアリマス、是ハ侵略戰爭ノ挑発者ノ個人ノ責任ニ付テコトデアリマス、又第十四頁ノ上、新シイ參畫者モ元來カラノ陰謀者ト同様ニ有罪デアルト云フ箇所ニ付テ反對致シマス、十五頁カラ十七頁マデノ箇所、即チ國際法ニ於ケル戰爭犯罪ト云フ文章ノ引用文デアリマスガ、私ハ之ニ對シテ最上ノ敬意ハ拂ヒマスガ、現在ハマダ議論サレテ居ル法律デアリ、認メラレタ法律トハナツテ居リマセウ
○ウエップ裁判長 (通譯ナシ)
○クライマン辯護人 私人今本法廷ノ裁判ノ手續ニ付テ、ドウ云フ手續デアアルカト云フコトヲ求メテ居ルト云フ原則ニ從ツテ今マデ發言シテ居リマスガ、續ケテ宜シイデセウカ
○ウエップ裁判長 裁判長ト致シマシテハ、アナタガ議論シテ居ルノハ、主トシテ「キーナン」氏ニ對スル論議デアリマス、今コ、デ議論スル時デハナイノデアリマスガ、後ノアナタノ御話ハ宜シウゴザイマス
○クライマン辯護人 デハ軍法會議ノ手續法ニ付テ讀マシテ戴ケマスデセウカ
○ウエップ裁判長 イケマセウデス

○クライマン辯護人 デハ私ノ筆記シタコトヲ簡單ニ述ベサシテ戴ケマスデセウカ
○ウエップ裁判長 (通譯ナシ)
○クライマン辯護人 先ヅ我々ハ事實トシテ主張サレテ居ルガ、實際ハ疑ノアル事實デアアル箇所ヲ省略シテ戴キタイト思ヒマス
○ウエップ裁判長 アナタハ我々ノ時間ヲ空費シテ居リマス
○クライマン辯護人 私人立證出來ナイコトニ付テ抗辯ヲサシテ戴ケマスデセウカ
○ウエップ裁判長 アナタハ動議ニ對スル規則ヲ御存ジノ管デスカラ、ドウゾソレヲ實行シテ下サイ
〔岡通譯 先程辯護人ガ申シマシタノハ、被告、平沼ノ無罪判決及此ノ裁判ハ間違ツタ裁判デアルト云フ二ツノ動議ヲ提出シタイト述ベマシタ〕
○ウエップ裁判長 「クライマン」辯護士ノ議論ハコ、ハ適當ナ時デアリマセウカラ、後ニソレヲ議論スル時モアリマセウ
○ブルックス辯護人 此ノ劈頭陳述ノサレル前ニ總テノ抗辯ハ劈頭陳述後サレルト云フコトガ約束サレマシタ、此ノ機會、此ノ時ニ於キマシテ私ノ唯一ノ反對ハ劈頭陳述ニ於テ證據ヲ提出シテ居ルト云フコトニ付デアリマス、即チ五十頁カラ先ノコトデアリマス、五十頁ノ第二節カラ五十二頁ノ上マデノ箇所ハ證據ヲ提出シテ居ルモノデアツテ、ソレハ我々ガソレヲ調べルコトノ出來ナカツタ情報ニ基イテ居ルノデアリマスカラ、劈頭陳述ニ入レルコトハ不適當デアルト主張致シマス
〔訂正 小野寺モニター「劈頭陳述ニ證據トシテ入レルコトハ……」〕
○ウエップ裁判長 (通譯ナシ)
○ブルックス辯護人 (通譯ナシ)
〔岡通譯 只今裁判長ガアナタハ劈頭陳述ニ證據ヲ提出スルノハイケナイト云フノデアリマスカト聞キマシタニ對シ、辯護人ハソレガイケナイト云フノデハナク、「キーナン」氏ガ是カラ提出スルト云ツテ居ルノハ、實際ハ其ノ

證據ヲ提出ツテ居ルコトニ關シテ抗辯シテ居ルノデアルト申シマシタ、「キーナン」氏ハ自ラ證據ヲ提出致シマスと言ツテ、ソレカラ爭フ餘地ノアル事實ニ付テ證據トシテ述ベテ居ルノデアリマス〕
○ウエップ裁判長 檢察官カラ擧ゲラレタ問題ニ付テ、今議論スル適當ナ場所デゴザイマセウト云フコトハ前ニ申上ゲタ通りデ、其ノ適當ナ時機ハ又後ニモアラウト思フノデアリマス——只今カラ十三日午前九時三十分マデ休廷致シマス
午後四時二分休廷
正誤
年月日 號 頁 段 行 正 誤
三・六三 八一 三五 M・コルマ M・コルマ
三・六三 八一 三三 M・コルマ M・コルマ
三・六三 八一 三三 小林俊三氏 小林俊三氏
(缺席)